

整形外科医師の紹介



整形外科医師
藤岡 文夫

令和2年4月から整形外科外来に勤務しています。

生まれは飯田市下久堅。

母が瑠璃寺のある大島山から下久堅へ嫁ぎましたので、高森町の地名には馴染みがあります。また、厚生病院前院長の社浦先生とは35年ほど前に厚生連北信総合病院でご一緒でしたので社浦先生が赴任された下伊那厚生には関心があり、診療所から病院へと成長し、療養病

床、介護医療院へと病棟再編を行い地域包括ケアの拠点となっていく様に目を見はり、そして大変うらやましく思っております。そのような病院で医師人生の最後の勤務ができることは幸いです。

小児からお年寄りまで

私は大学卒業後、信州大医学部整形外科で腫瘍（骨肉腫やがんの骨転移など）と小児整形外科（先天性股関節脱臼や内反足など）の治療班チーフとして勤務した後、長野県立こども病院整形外科に20年間勤務しました。こども病院では、こどもの腫瘍や生まれつきの

病気以外に脚や腕の長さを延ばす「脚延長術」も行っていました。それゆえ、高齢者の加齢による病気からは遠ざかっていたのですが、平成26年に長野県立阿南病院に転勤し高齢の方も診療することとなりました。下伊那南部は高齢者比率が大変高い地域で、外来も入院も患者さんの年齢は80歳から100歳が主流でした。私が整形外科医を始めた40年ほど前は、交通事故や労働災害が多かった時代で働き盛りの方が多く来られました。今や内科疾患の治療の進歩で平均寿命は確かに延びましたが、骨や関節や筋肉の寿命を保つ技術が遅れ、



・変形性膝関節症
・骨粗鬆症
・腰部脊柱管狭窄症
など、いわゆる「ロコモティブ（運動器の疾患）」がとも増えました。下伊那北部は果樹栽培にたずさわる方が多いためでしょうか、高いところのものを見る、採る時に酷使する頸椎（首の脊椎）や肩関節の変形も多いと感じました。



気軽にお越しください

関節が変形して痛くても、背骨が神経を圧迫して坐骨神経痛が出てても、皆さん手術を嫌がりません。私は休みのときは野菜を作り、